オレリエン・ハンクーのスイスへの誘い

スイスのことば

日本語のできる外国人は「あなたの母国語は何ですか？」とよく聞かれます。

私はフランス語だと答えると、間違いなく「フランス人ですか？」と聞かれます。

「いいえ、私はスイス人です」。

今回スイスの言語について書きたいと思います。

日本語では「母国語」をよく使うようですが、言語が必ずしも国家と結びつくものではないので、「母国語」(native language)より「母語」(mothertongue)と「第一言語」を使いたいと思います。

スイス人だと前もって言った場合、「スイスの国語は何ですか。スイス語？」と聞かれます。確かに日本に「日本語」があるように、フランスに「フランス語」、ドイツに「ドイツ語」などはありますが、「スイス語」というのはありません。スイスには４つの公用語があります。

念のために、それぞれの定義を載せましょう。

◇　ぼこくご　【母国語】　生まれ育った国のことば。
◇　ぼご　【母語】　①　生まれた本国の言葉。　②　言語形成期に習いおぼえて、以後の心的活動のきそになっている言葉。(「第一言語」も②の意味で使います)
◇　こくご　【国語】　①　その国の公用語・共通語。国家語。となっている言語。②　日本語。③　学校教育での「国語科」の略。④　和語。
◇　こうようご　【公用語】　政府が公式に用いる言葉。一国に数民族語があるときは標準的な共通語となるもの。(講談社の「国語辞典」より)

日本で日本語が公用語となっているのは当然で、法律さらに憲法とまったく関係のないことのようですが、スイスでは公用語が憲法の第４条で保障されています。「(スイスの)国語はドイツ語、フランス語、イタリア語とロマンシュ語です」。

ヨーロッパにおいてのスイスの地位を意識すればスイスの多言語併用のわけがとても分かりやすいと思います。北と東にドイツ語を用いるドイツとオーストリア、南にイタリア、西にフランスがスイスを囲んでいますから、それぞれの地域でそれぞれの言語が自然に使われるようになりました。

ロマンシュ語は、南東部にあるグラウビュンデン州のごく一部の人にしか使われていません。地図上で面積は広いようですが、そこの人口は少ないです。０．５％＝約３６，０００人。実はロマンシュ語が絶滅の危機にありますが、スイス連邦政府はさまざまな策で保存を試みています。言語の響きはイタリア語に近いですが、イタリア語ほど母音過多ではなく、語彙などの分布はフランス語に共通します。

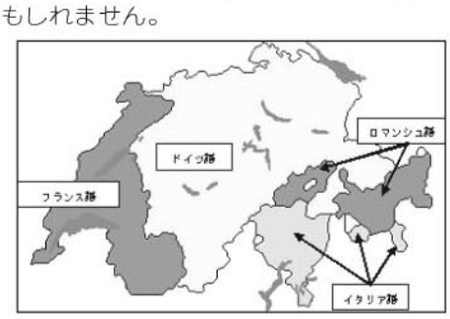
全てのスイス人が４ヶ国語を話せるわけではありません。しかし、２ヶ国語や３ヶ国語を使う州がありますし、国内で生産された物の内容表示などは全ての公用語で記されていますし、学校で第２国語を勉強するから、母語のほかにもうひとつの公用語を話すことができるスイス国民は多いです。残念ながら、最近お互いの国語ができない人が増えつつあって、英語に頼ってしまう傾向が見られます。

今まで、スイスの正式な公用語の話をしてきましたが、２０００年の国勢調査によると、スイスに住んでいる５人に１人は外国人です。スイスは昔から亡命者や難民を受け入れてきた結果です。滞在期間が長ければ長いほど、公用語を第一語にする人が多くいますが、公用語以外の言語を第一言語にしている人は全人口の９％にも上ります。そのうち、１．４％はクロアチア語とセルビア語(ユーゴスラビアの解体前にセルボ・クロアチア語がありましたが、別言語となった。調査では同じ言語として扱っています。)、１．３％はアルバニア語、１．２％はポルトガル語、１．１％はスペイン語と１％は英語です。その他に１％未満でロシア語、中国語、トルコ語、アラビア語など、１０ヶ国以上の言語があります。

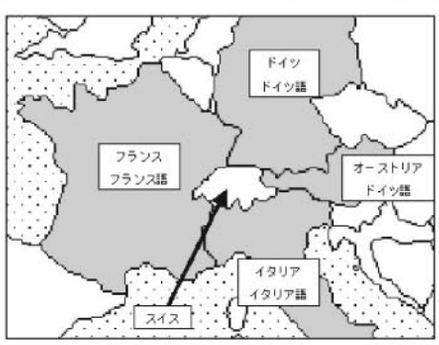
第一語は公用語ではなくても、日常生活や仕事上で住んでいる地域の公用語を使わなければいけませんから、多くの在スイス外国人は２ヶ国語ができます。

４つの公用語もあり、在スイス外国人口が多く、スイスは多文化社会となっています。

多文化社会は決して容易ではありませんが、お互い理解しあう機会が多いため、平和的な世界を作るひとつの手段かもしれません。



スイスの言語



スイス周辺の言語